

# ふくおかAL通信

～県立学校の教室から～

第30号  
(R2.1.8)

福岡県立学校  
新たな学び  
プロジェクト



福岡県立鞍手高等学校

## SSH、SGH、英語イマージョン教育の研究成果を活かした探究活動

福岡県立鞍手高等学校は平成29年度に創立100周年を迎えた歴史と伝統のある普通科、普通科人間文科コース、理数科を有する高等学校です。校訓「質実剛健」「自学自習」、校是「たくましく前進者たれ」を体現すべく、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）研究開発（平成24年～）、SGH（スーパーグローバルハイスクール）研究開発（平成27年～）、県の英語力向上推進事業（平成30年～）における英語イマージョン教育に取り組んでいます。それぞれの研究成果を活かし、探究を深めるための授業改善を行っています。

### 1 鞍手高校の教育活動方針（カリキュラムポリシー）

- ・SSHによる理数教育とSGHによるグローバルシティズンシップを育成する教育を柱に、主体的・対話的で深い学びを実践
- ・課題研究を中心とする探究活動や体験的な活動による高い実践力の育成
- ・生徒自身の主体的な学校行事の運営や分団制により、自主性やリーダーシップを育成

### 2 授業改善の推進体制

#### (1) 課題研究の概要と教育課程上の工夫・改善

1年次には、学校設定科目「現代社会探究」にて、地元筑豊地域に関する課題研究を4つの研究グループ（人口問題、資源・エネルギー問題、労働問題、地域活性化）に分かれて行い、探究の基礎を実際の探究活動によって身に付けていきます。

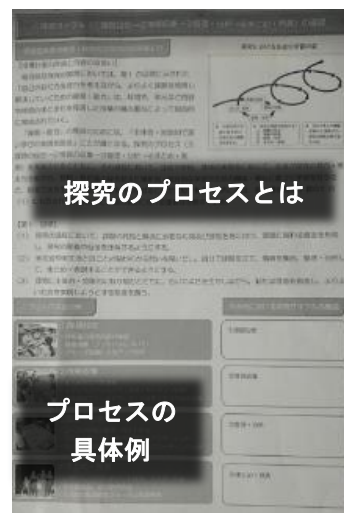
2年次には、普通科（人間文科コース以外）は「総合的な学習の時間」、普通科人間文科コースは「人文課題研究」、理数科は「SS理数探究」にて、より地元地域を深く見て関わる探究や、より世界を広く見て関わる探究を行うべく4つの研究グループ（フットパス（地域振興）、ドリームプラン（政策提言）、シンガポール・マレーシア研究、SSH課題研究）に分かれて実施します。本年度は、生徒がより能動的に課題に取り組めるように、スポーツや語学探究のグループも開設しました。

3年次には、理系はSSHによる課題研究、文系はSGHによる課題研究を実施します。全教員が学年を超えて生徒の指導に当たれるようにするため、学年ごとに時間割をずらして課題研究の時間を設定（例：1年は金曜6限、2年は火曜7限実施）しています。

#### (2) 指導体制の工夫・改善

校外の指導体制としては、各研究グループへの専門的な講義や助言を複数の大学に依頼するとともに、地元企業や地方自治体には意見交流や生徒からの提言を受ける機会をお願いしています。

一方、校内の指導体制としては、定期考査期間中に開催する職員研修において、「探究のサイクルの確認」等、全職員の共通認識を図る機会を設けるとともに、①各研究グループ内の職員の打合せや、②各研究グループの主担当者同士の打合せを頻繁に行うようにしています。例えば、4つの研究グループに分かれる第1学年の場合、各研究グループに主担当1名・副担当2名の計3名の教員を割り当てますが、①はこの3人の打合せ、②は主担当4



【参考】職員研修用資料

人の打合せを行っているということになります。この教科を超えた小グループでの教員の打合せが、生徒の探究活動を効果的にするだけでなく、特に若年教員の指導力の向上にも大きく貢献しています。

### 3 具体的な授業実践

#### (1) 2年課題研究

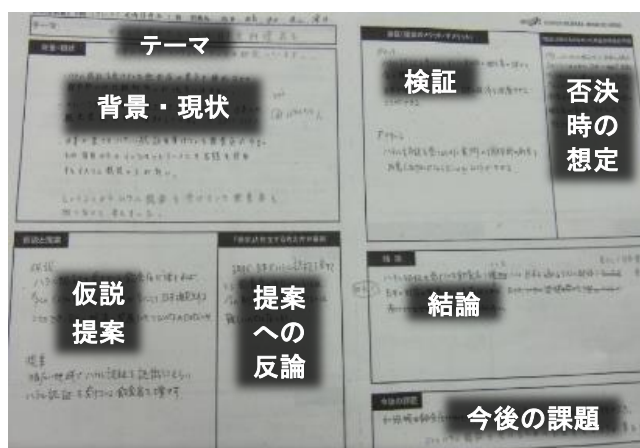
火曜の6限は普通科人間文科コース、7限は理数科を除く全クラスが課題研究の時間です。各研究グループの生徒達は、半月後の発表原稿完成に向け、教員から指示を受けることなく、情報の整理や分析、まとめ、発表準備に取り組んでいました。各グループの担当教員は、生徒の傍にいて、生徒から質問があれば助言するというスタンスでした。



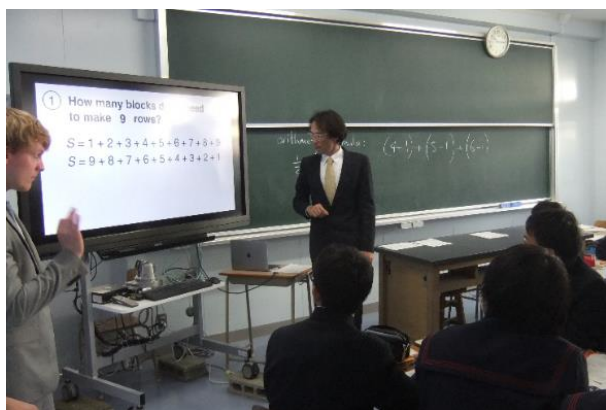
【写真】発表準備の様子

生徒が主体的に取り組める理由を考察すると、次の点が考えられます。

- ・「課題研究ノート」のワークシートにより、探究のプロセスが明確で、生徒が学習の見通しを持つこと。
- ・「課題研究ノート」には、先輩の研究成果や発表スライドが例示されていて、生徒は学習のゴールイメージを持つことができること。
- ・校内の研究グループ別発表会（毎年1月開催）や校外における発表機会という様々なアウトプットの機会が年間行事として定着していて、「探究活動をするのが鞍高生として当然」という学校文化や雰囲気確立されていること。



【参考】探究プロセスが明確な課題研究ノート



【写真】EASによる $\Sigma$ の導入場面の様子

#### (2) 英語イメージョン教育

英語イメージョン教育とは、EAS（英語活動指導員）とのチームティーチングにより、英語以外の教科の学習を英語で行うことで、当該教科の理解促進と実践的英語力の育成を目的としています。同校では、今まで、国語、地歴、公民、理科等の教科で実践してきました。今回は、理数数学Ⅱ「数列」の $\Sigma$ （シグマ）の導入場面で実施しました。英語で $\Sigma$ を表現し、教科書とは異なる公式の導き方を、教具を操作しながら議論をすることで、学習内容が記憶に残り、理解を深めることができているようでした。

### 4 成果と今後の方向性

課題研究を中心とする探究活動の定着は、日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラングランプリ」での入賞を始め、生徒の高校生活に対する意識にも大きな影響を与えています。例えば、大学入試の面接で、「高校時代頑張ったことは？」との質問に、以前であれば「部活動」「運動会」と答える生徒がほとんどでしたが、最近では「課題研究」を挙げる生徒が増えてきました。卒業後「高校時代の課題研究が、大学での研究のアプローチに役立っている」という報告をする卒業生もいます。高大接続、主体的・対話的で深い学びの実現がなされていることの証左です。

本年度、同校は、これまでの研究の成果と同校独自の授業開発アンケートの結果を鑑み、課題研究の観点別評価を、従来の23項目から7項目（共感力、対話力、調整力、論理的思考力、批判的思考力、創造的思考力、表現力）に厳選する改善を行っています。